

目次 Contents

緊急情報の伝達

いざというとき 避難や災害情報メールを受け取れる 緊急速報メールの配信を 開始しました

下野市では、8月1日より緊急速報メールを導入しました。避難や災害など、緊急にお知らせすべき事態が発生した場合について携帯電話等に配信を行います。

2

3 屋外拡声器などを用いた全国一斉の緊急情報の伝達試験が実施されます

14 国民年金だより

15 保健便り  Health Information

4 まちの話題

22 **Let's SPORTS**

6 小規模特認校による取り組み紹介

24 語学講座のご案内

農地の賃貸借・売買のことならご相談ください

26 **生涯学習**  より

7 財団法人下野市農業公社からのお知らせ

28 図書館Library Information

29 読書人

輝ける方を表彰します

8 文化活動及びスポーツ活動における表彰制度のご案内

30 歴史コラム

31 暮らしの情報

10 **環境トピックス**

48 国際交流員ザブリーナ・リンのコラム

13 平成26年4月入園保育園入園申し込みのご案内

今月の表紙



軽快なお囃子にあわせて、^{やぐら}櫓の周りを、円を描きながら踊ります。毎年恒例の国分寺地区コミュニティ盆踊り・花火大会が今年も開催されました。久々に隣り近所で顔を合わせることのできるこの機会に、多くの地元の方が参加しました。太鼓と笛の音が、真夏の夜にいつまでも響いていました。

今月の何の日

9月16日

マッチの日

1948（昭和23）年のこの日、当時配給制だったマッチの自由販売が認められました。

日本のマッチは、フランスに留学していた清水誠が1875（明治8）年に東京で黄燐マッチを製造したことが始まりです。

マッチは1827年にイギリスで発明されましたが、黄燐を使用したマッチは毒性があり、35度くらいの温度で自然発火する危険なものでした。そこで1852年にスウェーデンで頭薬と側薬に発火部を分離した現在の「安全マッチ」が開発されました。

明治後期から大正前期までは国内で作られたマッチの8割が輸出されるほどの盛況となり、繊維製品（生糸）、銅と並ぶ3大輸出品となり、日本の黄金期でした。

第二次世界大戦になると、マッチも統制品となり、1日4〜5本の配給となりました。粗悪品も多く、火付きが悪かったため、当時の主婦などは大変苦労したといわれています。